



You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

10月は『唐松草』

# Vol.29 2021.10.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

## 表向きの新鮮さと その裏にある事情

見慣れた（見飽きた？）名前と顔の合間に知らない名前が挟まれて、その“新鮮”な部分を売りにしてはいるものの、実態は、そうではないと思惑が事態を支配している：としか思えない。騙されたふりをするのが“倅せ”かもしれないが、いかにも居心地が悪い、断じて愉快な状況ではない。看板こそうまくデザインされてはいるものの、インパクトなし、下絵がうっすら見えていたりすると、闇の部分にむしろ表に出てきて明るい希望など感じ取ることはできない。

時はまた動きを止めてしまい、むしろ逆戻りの様相だ。絶望はしたくないが、明るい未来など見えはしない、せめて露ほどの“面白味”さえあればまだ救われ、愉しみもあるのだが、まだそんなものはどこにも見出せないでいる。名前だけが、テロップとあって流れて行く：『そかく』前夜の憂鬱：

## 「こんな映画を観てきた」 ウィークエンド・ラブ

スティープ（G・シーガル）はアメリカ人、保険会社勤務、生活程度は中流の上、結婚十一年、ビッキ（G・ジャクソン）は離婚を体験した子持ちの才女。お茶、昼食、そしてウィークエンドへと、二人の交際はエスカレートしていった。澄んだ空気があたたかい風、おいしい料理があるところ、というビッキの望みでジブラルタルが見えるところへ：。

これが、スペインはマラガというところで、その昔（1982年）“聖地巡礼”ではないが、自分もここから海峡を望み、できればモロッコに渡り、タンジールから列車でカサブランカを目指そうかと思っただけだが、時にサッカー・ワールドカップ・スペイン大会、その熱狂ぶりに“怖れ”をなして？アフリカ大陸上陸を断念してヴェニスからパリ、そしてロンドンに向かった。イタリアが優勝し、準優勝は西ドイツ、ロンドンのトラファルガー広場界隈には双方に関わりのあるお

店があつて、試しに覗いてみると、当然の温度差だったが、いずれも近寄りたいたいことだけは確かだったような：映画では“大人の分別”のもと、「また明日から変化のない生活が始まるのだ、それが人生ならばしようがない」として、エンドマークとなるのだが、そのわりに決して辛いばかりの“終わり”ではなかったような記憶がある。グレンダ・ジャクソンがこの作品で2度目のアカデミー賞（主演女優賞）を受賞した。

### 『ウィークエンド・ラブ』 -1973・英-

A TOUCH OF CLASS  
監督：メルビン・フランク

スティープ：  
ジョージ・シーガル  
ビッキ：  
グレンダ・ジャクソン

### 昭和の“沁みる”唄

#### 『新宿サタデー・ナイト』

作詞 佐伯 孝 夫  
作曲 鈴木 庸一 奈  
唄 青江 三

キスしたのあなたは  
わたしの心に  
ひとりではいられない女にしたの  
星までも流れるの  
待ちかねて探すよに  
好きよあなた 好きよあなた  
サタデーナイト サタデーナイト  
新宿の夜